PART2　なりの識別補足事項

★補足事項

～ あ／か／ざ／た／な （ん）なり

～ざんなり

～ななり

※「**な**なり」
「**な**めり」
＝
「　　」
（訳）「　　　　　　　　」

問六　傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中からそれぞれ選べ。

「仏、あはれとおぼしめしたりける[a]なめり」とぞ人言ふ[b]なる。

ア　当然　イ　伝聞　ウ　完了　エ　回想
オ　詠嘆　カ　断定　キ　婉曲　ク　反実仮想

a＝　　b＝

問七　傍線部ａ・ｂと文法的に最も近いものを、次の中からそれぞれ選べ。

この里にすみふりし飛騨人(びと)（＝大工）[a]なり。
やや寒う[b]なりはべるには、…

ア　かたはらいたければ書かぬなり。
イ　「静まりぬなり。入りて、さらば、たばかれ」とのたまふ。
ウ　長押(なげし)の下(しも)に人々臥して答(いら)へすなり。
エ　「出でずなりぬ」と聞こえたまへば、慰みて起きたまへり。
オ　をかしき節もなくのみぞあなりし。

a＝　　b＝

問八 「みな人は花の衣になり(a)ぬなり(b)。」の傍線部「なり」の文法的説明をそれぞれせよ。

a ＝

b ＝

問九 「かしこにはしはべるなるに、…」の傍線部と文法的に同じ意味の「なる」「なり」を含む和歌を、次の中から一つ選べ。

ア　厚氷くだきし跡の見ゆるなり山下清水くむ人やたれ

イ　世の中のあはれなるには大空の雲も涙を惜しまざりけり

ウ　嘆けとて月やはものを思はするかこち顔なる我が涙かな

エ　世にふれば又もこえけり鈴鹿山昔の今になるにやあるらん

オ　あしびきの片山きぎすうちはぶき妻ごひすなり春のあけぼの

問十　傍線「なり」と文法的意味・用法が同じものを、次の中から一つ選べ。

船人の見るに、海のなかに浮きて漂ふ者あり。これを引き上げて見れば、縛られたる僧なり。船人、大きにあやしみて、「何人ぞ、かくは縛られたるは」と問へば、「われはしかじかの者なり。盗人にあひて縛られて落とし入れられたるなり」と答ふ。

（一部省略）

ア　太政大臣になりたまふ
イ　容体ほそやかにあてなりければ
ウ　おのづから宿世宿世に人となりたちぬれば
エ　侍従の大納言の御女、なくなりたまひぬなり
オ　またなくあはれなるものは、かかる所の秋なりけり

第17講　PART2　確認問題

① 「人の心ざし等しかんなり。」の傍線部「なり」の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定　　イ　詠嘆　　ウ　完了　　エ　伝聞推定

② 傍線部のうち、文法的意味が他と異なるものを次の中から選べ。

ア　「いかにぞとだに問ひ触れざなり。」
イ　「いと悪しきわざなり。」
ウ　「まだ渡らざなり。」
エ　「寝こそ寝られざなれ。」

③ 「いとよきことなりとなむ、おのれは思ふ。」の傍線部と、文法的意味が同じものを、次の中から選べ。

「『ありしところに女子生みた（ア）なり。
さぞとなむ言ふ（イ）なる。さもあらむ。
ここに取りてやはおきたらぬ』
などのたまひし、それ（ウ）な（エ）なり。」

④「子となり給ふべき人なめり。」の傍線部の文法的説明として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　断定の助動詞
イ　伝聞推定の助動詞
ウ　動詞「なる」
エ　形容動詞の活用語尾

⑤「程なく罷（まか）りぬべきなめりと思ふが、…」の傍線部の意味として最も適当なものを、次の中から選べ。

ア　行かなくてはならない
イ　行ってしまうのはいやだ
ウ　行かなくてはならないのであるようだ
エ　行ってしまうことになるそうだ

第17講 PART2 解答

問六 a カ　b イ
問七 a ア　b エ
問八 a ラ行四段活用動詞「なる」の連用形
b 伝聞推定の助動詞「なり」の終止形
問九 オ
問十 オ

第17講 PART2 確認問題 解答

〔解説〕

① 傍線部の上の「等しかん」は、形容詞「等し」の連体形「等しかる」が撥音便になったもの。「なり」は伝聞推定の助動詞で、ラ変型の活用語の場合は、その連体形につく。

② イは「わざ」という体言に断定の助動詞「なり」がついたもの。ア・ウ・エの傍線部は伝聞推定の「なり」。上の「ざ」は打ち消しの助動詞「ず」の連体形「ざる」が撥音便になったもの。エは係り結びで已然形になっている。

③ 傍線部の「なり」とウは断定の助動詞。ウは連体形「なる」が撥音便になったもの。ア・イ・エは伝聞推定の助動詞。

④ 傍線部の「な」は断定の助動詞「なり」の連体形「なる」が撥音便になったもの。

⑤ 「なめり」は、断定の助動詞「なり」の連体形に推定の助動詞「めり」がついた「なるめり」が撥音便化したもの。

〔解答〕

① エ　② イ　③ ウ　④ ア　⑤ ウ